

令和6年3月19日

会員各位

岐阜県保育研究協議会
会長 可児 亨

令和6年能登半島地震にかかる被災地支援について（ご報告）

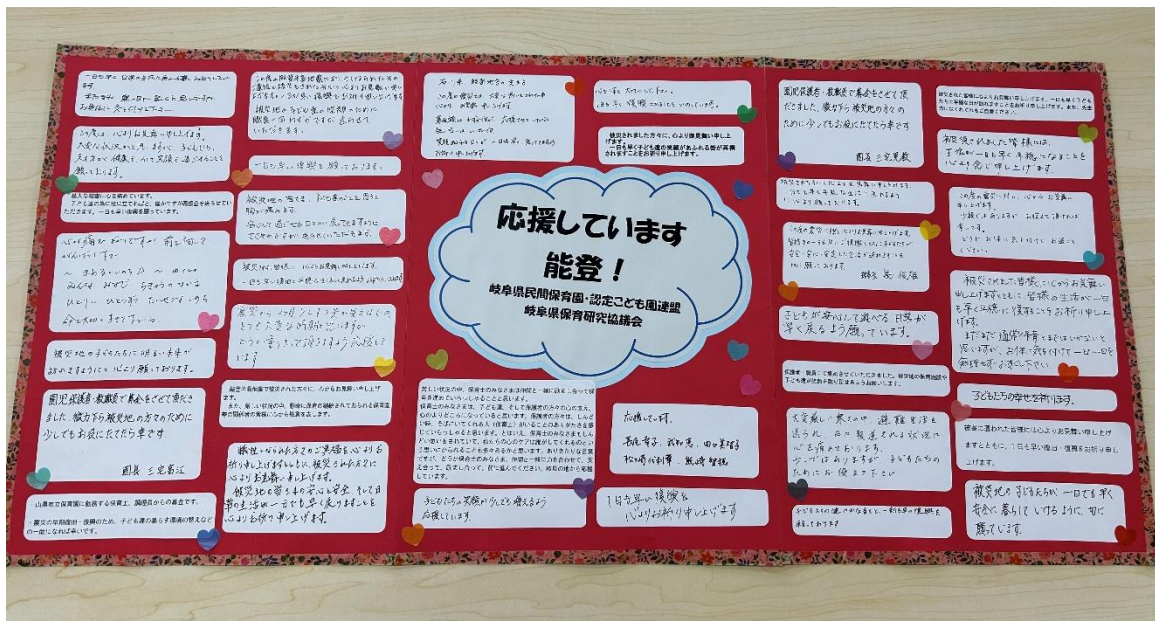
保育事業の推進につきましては、日頃より格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和6年能登半島地震にかかる「岐阜県保育団体被災地支援募金」につきましては、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

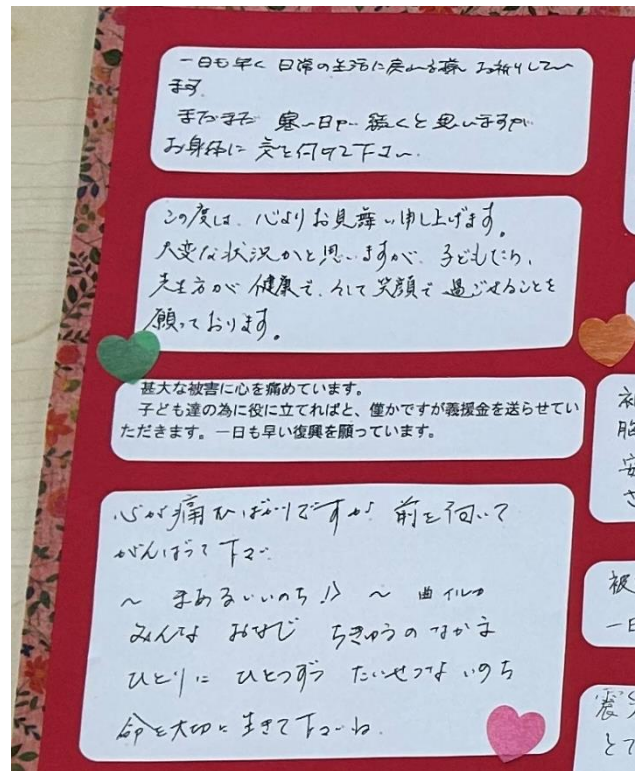
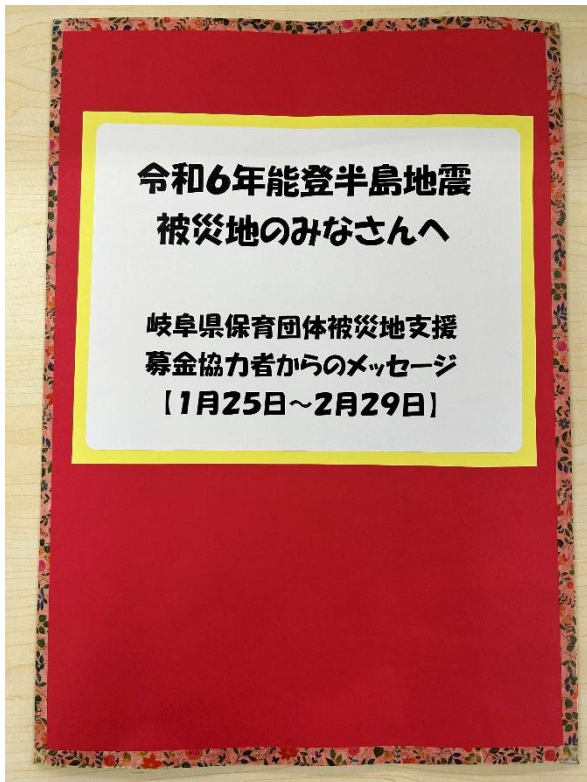
3月15日（金）、岐阜県保育研究協議会および（一社）岐阜県民間保育園・認定こども園連盟の両役員が石川県を訪問し、皆様からいただきました募金やメッセージ等の一部を被災地へ直接お届けしました。



「オールこども石川」事務局（金沢市）へ義援金とメッセージをお届けしました。



第一次募集で募金にご協力いただいた会員施設（法人）名・市町村名等を一覧にまとめ、皆様からの心温まるメッセージとともにお渡ししました。



続いて、穴水町 平和こども園、七尾市立 中島保育園へ向かい、義援金・見舞品等をお届けしました。



平和こども園では、依然断水状態にありますが、現在も自主避難所として避難者を受け入れながら、保育を再開されています。

また、比較的被害の少ない中島保育園では通常保育を再開していますが、メンタルが不安定なお子さんも多く、継続的な支援の必要性が感じられました。



被災地では未だ被害の傷跡や課題が山積している状況にあります。

こうした状況を踏まえ、「岐阜県保育団体被災地支援募金」では第二次募集としまして、現在も引き続き、募金を受け付けています。

皆様におかれましては、何卒ご協力よろしくお願い申し上げます。

【最後に】

この度、被災地を訪問し、被害の甚大さを目の当たりにしました。

「この震災でこれまで当たり前としていたことが、すべてが当たり前ではないということを実感しています。」という現地のある先生の言葉が深く心に残りました。そんな状況にあっても、どの先生も明るく前向きに現実と向き合っておられました。震災から2ヶ月以上が経ち、少しずつ先が見えてきたことと信念を持ってこの苦境を乗り越えようとする強い思いで、保育に、そして日々の生活に臨もうと奮起しておられました。しかしながら、まだまだ不安やご苦労は尽きないのも現実です。こうした先生方の直接の声を聞かせていただくことで、子どもたちの心のケアと合わせて職員の皆さんへのケアが今後も更に重要であり、そのためには長い目での支援の必要性を感じました。

今回の訪問は中能登まででしたが、更に甚大な被害がでている奥能登の輪島市、珠洲市のことを思いますと胸が痛みます。今後、状況をみながらこれらの地域への訪問も計画していきたいとします。

- ・ 令和6年能登半島地震にかかる被災地支援について（お礼と第2次募集のご案内）
(<https://www.winc.or.jp/hokyo/>)